

「さよなら原発！佐賀連絡会」の豊島と申します。本日は、知事にはお忙しい中、このような機会を設けていただきありがとうございます。本日集った団体を代表して、ご挨拶と、意見を申し上げます。また、各団体からもそれぞれ質問及び要請を提出しますので、各団体にご回答頂くようお願いいたします。これからの私の発言に対しても、機会を見てご意見を頂ければ有り難く存じます。

1. 大飯判決に関連して

昨年12月4日、大阪地裁は大飯原発許可を取り消す判決を出しました。判決はその「要旨」の(4)に、規制委員会の審査・判断における過誤として次の指摘をしています。

「経験式が有するバラツキを考慮した場合、これに基づき算出された地震モーメントの値に何らかの上乗せをする必要があるか否か等について何ら検討することなく、本件申請が設置許可基準規則4条3項に適合し、地震動審査ガイドを踏まえているとした。」

この点は玄海原発にもそのまま当てはまると考えられますが、いかがでしょうか。そもそも、県はこの判決のこの点について、あるいは他の点について、検討をされましたでしょうか。

この判決は、玄海に当てはめると、玄海原発で想定された地震動620ガルは過小評価と判断することを意味します。実際、5年前の熊本地震では益城町で最大加速度1,580ガルを記録しています。県の耐震診断を促進するチラシでは、「佐賀で大地震が起こるのは明日かも知れない。いつどこで起きるか分からない大地震にそなえて」と大書してあります。玄海町が例外であると言えるのでしょうか？

2. トリチウム放出問題

トリチウムは、政府が計画している福島原発事故からの汚染水(放射性物質の部分的除去後の水)の海洋放出でも問題になっている放射性物質ですが、玄海原発からは国内原発の中で最も多量に放出されて来ました(資料1)。再稼働とともにトリチウム放出も再開されました。これと関連性を疑われるのが周辺での白血病の多発です。森永氏の調査の資料を添付します(資料2)。この疑問について県独自で調査・分析をしていただくようお願いいたします。

1973年から2010年の間、原発3キロ圏内の玄海町8地区・鎮西町1地区で行われた「北部地区住民検診」の調査データが秘密にされていますが、このデータに県として関心がおありでしょうか。これを入手、分析するつもりはありませんか。もしそうでなければその理由を知りたいと思います。

3. 原発避難の問題について

原発事故時の住民避難はもともと想定どおりうまく行くとはいほとんどだれも信じていないと思います。ましてや現在のコロナ感染状況下での避難ではなおさらでしょう。現状では、通常時と比べてどの程度「能率」が低下すると見積もられているのでしょうか(例えば、24時間以内に避難できる人数がどの程度減るか、など)。それともそのような見積もりや推定は行っておられないのでしょうか。

また、重大な事故と所内感染とが同時に発生すれば、事故対応も困難になります。このような場合の想定は行われているかどうか、九電に確認していただきたいと思います。

原発避難ではSPEEDIを利用しないとされ、その理由として、この予測通りにはならないことがあるから、というお考えと承知しています。では、風向きなどは無関係に、常

に一定の方向、ルートで避難するという方針でしょうか。もしそうであれば、たとえ外れることがあるとは言え SPEEDI を利用した場合と、固定したルートで避難する場合とで、後者が統計的・確率的に被ばく低減に有利である、あるいは劣らないという根拠を示して頂くようお願いします。

4. 使用済み燃料（核のゴミ）について

運転を続ければ使用済み燃料もそれだけ増え、搬出先の見通しが無いまま発電所にたまる一方という身近な問題が差し迫っています。もちろんそれだけでなく、この最終処分が不可能に近いという事実もよく知られています。

CO2 削減で原発に期待する向きもあるようですが、ウランの資源量は、発熱量換算で天然ガスの半分以下という事実にも注目すべきです。ウランを、せいぜいでも 100 年間で使い切ったとして、そのツケを私たちの子孫の 3,000 世代（10 万年）にもわたって負わせ続ける行為というのは、正気の人間的な業（わざ）とは思えません。この点をどうお考えでしょうか。

放射能を消滅させる処理方法についての確証など誰も持たないと思います。

5. 県民・市民や、市民団体との直接対話をお願いします

知事は 1 期目に就任されて間もない頃、2015 年 4 月に、今回のような私達との面会の機会を設けていただきました。終わってメディアの前で「皆様方のご意見をお伺いすることが出来て、意義があったと思っております。これに限らず、またこういう機会を設けていこうと思っております。」と述べられました。しかし玄海原発の再稼働に際しても、県と県民、市民との直接対話は実現されませ

んでした。2017 年 2 月から 3 月にわたって開かれた「説明会」も、あくまで経産省などによる「説明」であって、県と県民との対話ではありません。

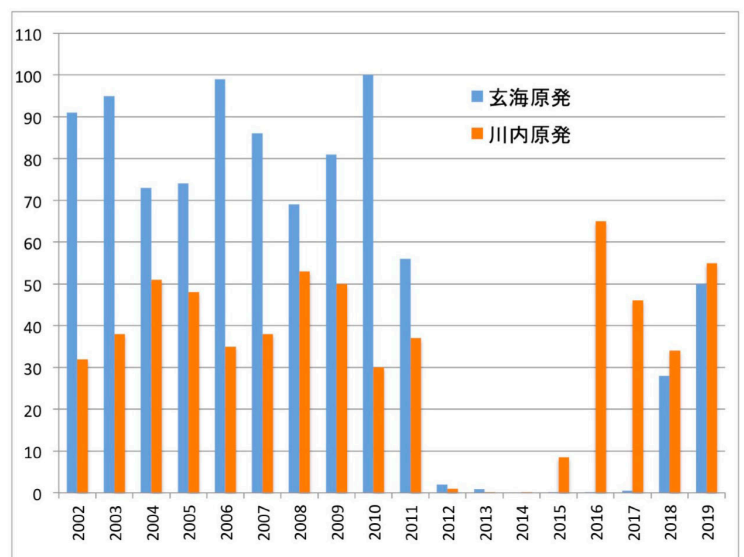
私たちの参加団体の一つ「裁判の会」が一昨年 2 月に知事あての質問を提出した際、回答される場での知事または責任ある担当者との直接対話を求めたところ、知事からは「直接対話することは考えていない」との回答でした（2019 年 3 月 15 日付文書）。これは 2015 年の姿勢とは 180 度異なりますが、本日直接お会いできたことを機会に、実質的な意見交換の場を、— もちろん知事ご自身が頻繁にというわけにはいかないと思いますので、原発問題の担当者と、直接やりとりができる場を設けていただくようお願いします。

資料 アドリブ追加：10万年を過去に遡ればネアンデルタール人の時代、日本では縄文人はわずか1万年前、彼らはこんな厄介なものを私たちに残したりしていません。

(1) トリチウム放出量推移

https://pegasus1.c.blog.ss-blog.jp/_images/blog/_8db/pegasus/tritium-emi2020.jpg

液体トリチウム放出（テラベクレル）



(2) 別紙 1 森永徹氏の発表（第 56 回日本社会医学学会総会，2015 年 7 月 25・26 日，久留米大学医学部）（右の QR コード、またはすぐ下の url にもあります。）

<http://ad9.org/pdfs/nonukessaga/y2017/leukaemia-genkai.pdf>

